

目の奥の血管や神経の状態を詳しく診る「眼底検査」。緑内障など中途失明につながる目の病気だけでなく、脳卒中のリスク要因となる動脈硬化なども早期発見できる。

## 中高年になったら自発的に受けよう

# 眼底検査

「40歳を過ぎたら、年1回は眼底検査を受けてほしい」。上野毛眼科（東京・世田谷）の鎌田芳夫院長はこう話す。緑内障などは中高年になると発症リスクが急に高まる。多くが自覚症状がないまま進行する。手遅れになる前の早期発見が何より大切だ。

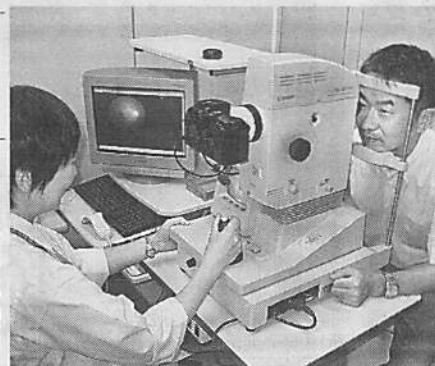
### 「脳の血管」の一部

一度に多くの検査ができる利点があるが、観察できる範囲は眼底の一部に限られる。東京慈恵会医科大学付属第三病院（東京・狛江）の三戸岡克哉・眼科診療部長は「眼底の周辺部から病変が始まった場合、健診での眼底検査では見逃しが発生してしまうこともある」と話す。

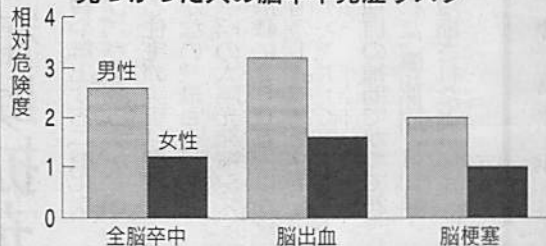
最大の原因である緑内障は、網膜の神経が束になって脳へと向かう「視神経乳頭」の形状に異常が現れる。また、糖尿病性網膜症では眼底にある血管のコブや出血が目印となる。ほかに加齢黄斑変性症や白内障、視神経の炎症、網膜剝離（はくり）など、様々な目の病気の早期発見に役立つと考えられている。

眼底検査には、大きく分けて2種類がある。1つは眼底

通常の健康診断ではあまり受ける機会がないので、専門の医師は、中高年になったら自発的に受診するように、呼びかけている。



眼底検査で細動脈が細くなる異常が見つかった人の脳卒中発症リスク



（注）大阪府立健康科学センターが秋田県井川町の住民1786人を対象に分析。相対危険度は、異常な所見が見つからなかったグループを1とした場合の発症リスクの高さを示す

## 緑内障を早期発見／脳卒中リスク把握も

健診で行われるタイプの眼底検査（大阪市の大阪府立健康科学センター）

眼底検査の効用は目の病気の早期発見にとどまらない。梅毒や、カビが原因で起こる真菌症などの感染症、がんの転移なども早期に見つかることがあるという。

眼底は唯一、体を傷つけずに血管の状態を観察できる場所でもある。目は脳にも近く、眼底にある血管は脳の血管の一部ともいえる。眼底の血管

### 実施の機会減る

眼底検査が脳卒中の予兆を知る上で有用なことは、疫学調査でも明確に裏付けられている。大阪府立健康科学センター（大阪市）は1986、89年に眼底検査を受けた秋田県井川町の40〜69歳の住民1786人を対象に、2005年まで脳卒中発症の有無を観察した。眼底検査で血管が細くなるなどの異常が見つかった人は、そうでない人と比べて、脳卒中を起こす頻度が高くなっていった。

様々な病気の早期発見に役立つ眼底検査だが、「08年の特定健診（メタボ健診）の導入以降、眼底検査が実施されなくなってきた」（同センターの北村明彦副所長）。メタボ健診の実施要項では、高血

### ひとくちガイド

#### 「ホームページ」

◆目の様々な病気について詳しく知りたければ日本眼科学会「目の病気」(<http://www.nichigan.or.jp/public/disease.jsp>)

#### 「本」

◆健診で受ける眼底検査の専門的解説書『手にとるようにわかる健診のための眼底検査 改訂版』（大阪府立健康科学センター編著、ベクトル・コア）

（本田幸久）